

新型コロナウイルスにおける、安全なチーム活動

再開に向けた感染防止対策ガイドライン

作成者
南山田ライオンズ B チーム 監督
郡司 拓弥

最終承認者
南山田ライオンズ 代表
小谷 良平

1. はじめに

2. 現状と考察

(1) 社会の現状・考察

- ① 政府の現状及び考察
- ② 学校側の現状及び考察
- ③ 野球界における現状及び考察

(2) 少年野球での現状

- ①都筑区少年野球連盟からの指示
- ②グラウンドの現状
- ③現状の大会予定

3. チーム活動再開に向けた課題及び対策

- (1)-A 全般的事項における対策とお願い
- (1)-B 練習における対策とお願い
- (1)-C 遠征における対策とお願い

4. その他

- ①チーム行事について
- ②活動再開後、感染者が発覚した場合

5. さいごに

1. はじめに

平素より、南山田ライオンズのチーム活動に、ご理解並びにご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

国内において、新型コロナウイルスの感染拡大により政府から緊急事態宣言も発出され、チーム活動を休止としておりましたが、皆様の予防対策のおかげで、チーム関係者からの感染者が出ることなく、5月25日緊急事態宣言も解除となりました。

少しずつではあるが、日常生活が戻りつつある状況下、野球をやりたいと思っている子どもたちの為、チーム活動の再開をここに提案させていただきたく存じます。

しかしながら、感染の状況や医療提供体制等を基準に解除とはなりましたが、感染拡大のリスクをゼロにすることは難しく、まだ予断を許さない状況です。

また、政府からも感染リスクをコントロールしながら、段階的に社会経済の活動レベルを引き上げていくと示されている中、チームとしては、依然同様の活動では、いけないと考えております。

選手並びに関係者の安全確保が必要であり、「3密」等を避けるべく、施策に講じなければならないと考えております。

本文書においては、新型コロナウイルス感染拡大による行政及び野球界の現状・見解を基に、安全なチーム活動再開に向けた課題と対策を、説明・明記する必要があると考え、ここに記し、作成に当たりました。

郡司 拓弥

2. 見解と考察

(1) 社会の見解・考察

① 政府の見解及び考察

政府より、5月25日に緊急事態宣言の解除がされた。

今後は、感染リスクをコントロールしながら、社会経済の活動レベルを引き上げていき、段階的に外出の自粛、イベント等の開催制限、施設の使用制限の要請を緩和するとなっている。しかしながら、「三つの密」（以降3密と略す）の回避や「人と人との距離の確保」「マスクの着用」「手洗いなどの手指衛生」をはじめとした基本的な感染対策の継続など、感染拡大を予防する「新しい生活様式」を社会経済全体に定着させていく必要がある。

1) 新型コロナウイルス感染症対策本部（第36回）内での資料より引用

やはり、緊急事態宣言の解除がされた中、引き続きの感染予防は続ける必要があると考える。また、今回のコロナウイルスにおいて、感染拡大並びに温度感の高さの最大の要因は次の点と考える。なお、その他の要因も多くあるが割愛させていただきたい。

① 「3密」の環境下におけるクラスターが発生している為

⇒ 院内感染等も発生しており、感染力が強くウイルス自体にも生命力があるため、懸念されていた。

現在公表されている、「新しい生活様式」においては、対面での会話は避ける、外出時のマスク着用も促されている。今回において重要なポイントは「3密」を含めた、人との距離がかなり重要視する必要があると感じている。

② 学校側の見解及び考察

学校側6月1日からの段階的な教育活動の再開をすると先日発表があった。段階的な再開については、A 分散登校による少人数での半日程度の授業 B 半日程度の短縮授業という段階を踏むことになる。なお、期間は6月末までとし、その際の給食の実施はない。教育活動中は以下の点を留意すると記載があった。

・ こまめな換気の徹底 ・ 多くの人が手の届く距離に集まらないための配慮 ・ 近距離での会話や大声での発声への配慮 ・ 飛沫飛散防止のためのマスク着用 ・ 手洗い等の励行を指導 など、保健管理や環境衛生に十分配慮した上で、教育活動を行います。

2) 6月1日以降の段階的な学校再開に向けたお知らせ 5/25 各小学校より

学校側からの留意点から読み取れる点は、「大声での発声の配慮」についての、記載がある。

①政府からの見解及び考察の項に基づき作成はしていると考えられるが、「大声での発声」については小学校内においては発生する可能性が高いと考え、記載されたと読みとれる。前項にて「3密」に含め「**大声での発声の配慮**」も新たなポイントではないかと考える。

③ 野球界における見解と考察

高校総体(インターハイ)、選抜高校野球 夏の甲子園等がコロナウイルスに感染拡大によって開催が困難となり、中止が発表されている。理由としては2週間以上の大会期間中の宿泊における感染リスクが高い。また、選手が練習の期間を要していない為、大会期間中のケガのリスクが高まっている為開催が困難と判断されている。

3)公益財団法人 日本高野連 第102回全国高等学校野球選手権大会中止の案内より

プロ野球もやはり開幕が延期となり、緊急事態宣言の解除後6月19日に開幕が決定となったが、無観客開催が前提となる。選手間においても、毎日の健康チェックの実施の施策が挙げられている。また、MLBにおいては、スタンドもベンチとして利用し、「3密」を避ける施策も上がっている。

4) (専門家チームによる提言) NPB・Jリーグにおける新型コロナウイルス感染症対策

アマチュア野球・プロ野球ともに、やはりコロナウイルスにおける影響は甚大であると考ええる。本件を踏まえて考えるポイントは「ケガのリスク」が読み取られる。小学生よりも成長をしている高校生でも宿泊のリスク他、練習期間不足におけるケガを開催中止の理由として挙げている。未来のある少年野球選手に対し、「**ケガのリスク**」というポイントも視野も置かなければいけないと考える。

(2) 少年野球界での見解・考察

① 都筑区少年野球連盟からの見解及び考察

3月ごろからの感染拡大により、都筑区少年野球連盟(以降連盟と略す)からの春季大会の延期、審判講習会の中止を始め、試合及び練習の自粛要請があった。以降、緊急事態宣言発出後には、前年度秋季大会にて入賞により推薦された、「第43回関東学童軟式野球大会横浜市大会」の中止、夏季大会上位入賞にて推薦される上部大会の中止も続々と決まった。しかしながら、都筑区春季大会の中止の連絡も無く、延期の連絡を受けて以降進捗はない。5月29日緊急事態宣言解除を受け、連盟として試合及び練習自粛要請解除の連絡が来た。活動再開について各チーム内での検討・感染予防策を講じるようにと記載があった。しかしながら、現在休止の春季大会・次の夏季大会についての連絡は一切なく状況は変わらない。

考えられる点は、現在、連盟にて大会運営について検討中であると推測される。また、学校が分散登校での対応中、なかなか運営に踏み切れないという予測レベル考察にはなるが、可能性としては0ではないと考える。また、コロナウイルス感染拡大の期間に学校の動向も併せて、各チームへ情報配信していたことから、学校の動向と連盟の動きがリンクしている高いと考える。

② 利用グラウンドにおける現状について

3月より小学校の休校により、学校のグラウンドは使用禁止となった。また、緊急事態宣言発出後、公園グラウンドも使用が出来なくなった。個人利用として公園には多くの方が利用していた印象がある。緊急事態宣言解除に当たり、神無公園、牛久保西公園、すみれが丘公園の利用は可能に。また山田小学校・中川小学校・東山田公園については6月末までの使用禁止が出ている。以下は各グラウンドの状況についてまとめた表である。

グラウンド	現状
神無公園(注)	6月より利用可能
牛久保西公園(注)	6月6日より利用可能
すみれが丘公園(注)	6月より利用可能
山田小学校	6月末まで利用禁止
中川小学校	6月末まで利用禁止
東山田公園	6月末まで利用禁止

(注)について

記載ある公園については、行政の要請により団体利用時における利用者全員の検温の要請が来ている。

尚、検温記録については、書面で記録を残し、1か月の保管が必要と言われている。

③ 各チーム大会の状況について

総会資料、年間スケジュールにて参加予定の大会の現状について取りまとめる。

A1

大会名	開催時期	現状
都筑区大会	春・夏・秋	連絡なし
都田リーグ	通期	連絡なし リーグ戦の為 実施の可能性が高い
第110回 YBBL 春季大会	3月～5月	秋大会へスライド
西部リーグ	6月～	中止
第106回 県小連 春	4月～	中止
イツコム絆杯	7月～	中止
小泉杯	4月～	中止
ベイスターズカップ	7月～	中止
第110回 YBBL 秋季大会	9月～	春大会の抽選結果にて 実施予定
第107回 県小連 秋	10月	開催予定
オーシャンカップ	10月	開催予定
さわやかカップ石毛杯	11月	開催予定

A2

都筑区大会	春・夏・秋	春季大会は中止
第76回教育親善野球大会	4月～	中止
ノースリーグ	9月～	開催予定
第77回教育親善野球大会	9月～	開催予定
さわやかカップ教育	10月～	開催予定

B

区教育リーグ	通期	開催予定
さわやかカップ	通期	開催予定
親善交流ジュニア	通期	中止
第 34 回わかばジュニア	4 月	中止
第 35 回わかばジュニア	10 月	開催予定
YBBL 4 年生大会	10 月	開催予定

C

区大会	4 月 10 月	連絡なし
ATM 春季大会	5 月	中止
ハマスタティーボール	8 月	未定
ATM 秋季大会	11 月	開催予定

※各大会 5 月末現在の状況であり、変更の可能性は高くあり。

現状として大会数はかなり減ったものの、進捗がない大会も多くある。また、秋から冬にかけての大会においては事務局・運営側がまだ動いていないケースがある。大会動向に各監督による情報収集を引き続き行う。

3. チーム活動再開に向けた課題及び対策

本項においては、前項にて見解・考察の項にて挙げたポイントと、野球界の現状を含め、チーム活動再開に向けた対策提言していく。以下説明においては今後遭遇するケース毎での説明を行う。

また、設定理由・補足説明の項目において特筆がされていないものに関しては対策の実施は終了期限を設けない。各事項において安全が確保されたと判断が出来た場合、改めて協議を行うこととする。

(1) -A 全般的事項における対策とお願い

1. 練習参加について

練習の参加の可否について各ご家庭で重々検討いただき、任意とする。

なお、欠席における評価への変動はしないこととする。

2. 検温について (2)②の項 (利用グラウンドの現状) 参照

活動日の朝、各ご家庭での検温の実施。

記録が求められているグラウンドについては行政より記録を残し、1か月の保管が求められているため、以下フローでのご報告・記録を行う。

1 各ご家庭での検温を実施後⇒ 2 各監督へ提出

※検温記録用紙はチームにてフォーマットを作成。

・設定理由・補足説明

行政の指示により策定。

実施終了については行政からの指示を遵守する。

また、検温した際に発熱が確認された場合、当日活動への参加は控えていただく。

3. マスク着用について (1)②の項 (学校からの見解) 参照

マスクの着用については、今後の暑さが増し、「熱中症」「酸欠」になる可能性も視野に入れ次のように対応とする。

① 活動場所までの行き帰りについては着用義務とする。

② 練習中については前述の「熱中症」等を考慮し義務付けはしない。

③ 監督・コーチ・保護者について活動中は着用を義務付ける

4. ソーシャルディスタンスの指導

(1)①の項（政府からの見解）参照(1)②の項（学校からの見解）参照

全てのライオンズ関係者への「ソーシャルディスタンス」の確保の為、指導を行う。

・設定理由・補足説明(具体例)

- ・グラウンド集合時の「3密」への指導
- ・練習中の集合・整列の際は間隔をきちんととる。
- ・アップ時の「3密」はコーチを帯同させ指導にあたる。
- ・大きい声を出す練習等を行わない。

(1)-B 練習における対策とお願い

1. 人数について (1)①の項（政府からの見解）参照

各学年での練習を行うことを厳守する。

なお、学年の人数構成の関係も考慮をし、以下の割り振りで行う。

A チーム	6 年生	5 年生	最大	13 名
B チーム	4 年生		最大	9 名
C チーム	3 年生以下		最大	7 名

・設定理由・補足説明

(1)①の項（政府からの見解）より「3密」を避けるべく策定。
継続最大事項とも考える。

2. 集合時間について (1)①の項（政府からの見解）参照

各チーム(A チーム 5,6 年生 B チーム 4 年生 C チーム 3 年生以下)にて、
集合時間に最低 30 分間の時差をつける。

・設定理由・補足説明

選手約 30 名に 監督・コーチ 保護者集合時に集まる可能性が高いため。
また、アップ等においての「3密」についても避ける為、策定

3. 練習時間について (1)①の項(政府からの見解) ③(野球界からの見解) 参照

練習時間については段階的な再開を軸として、まずは原則 2 時間とする。

・設定理由・補足説明

特に(1)③(野球界からの見解)の項に注目をした。高校生というステージにおいても「ケガのリスク」を考慮され大会中止が決定となっている。今回の自粛期間は約4か月にも及んでおり、重きを置くべきと考え策定。

また、練習時間については段階的に増やしていければと考えている。

その為、以下モデルを作成する。

ステージ1	2時間	6月末までを予定とする。
ステージ2	半日練習	全日練習での安全が確保と判断されるまで

・全日練習について

安全が確保・大会の日程等についての見通しがつくまで全日練習については現時点では予定しない。

4. 練習場所について (1)①の項(政府からの見解) 参照

練習場所については、前述(1.人数についての項参照)に記載をした

グループにて、各グラウンドの4隅を使って練習することを厳守する。

また、取得されているグラウンドについては有効活用することとする。

例)AM 神無公園 PM 牛久保西公園 取得の場合は必ずチームを分けて予定を組む

・設定理由・補足説明

(1)①の項 (政府からの見解)より「3密」を避けるべく策定。

グラウンドの有効活用も実施をし、練習での満足度も上げられればと考える。

5. 補食について (1)①の項(政府からの見解) 参照

補食の持参については衛生面を考慮し、禁止とする。

・設定理由・補足説明

政府提言の「新しい生活様式」では外部での食事を推奨してはいるが、野球という運動中の食事という観点から、あまり推奨出来ないと考え禁止とする。

6. 道具について (1)①の項(政府からの見解) 参照

バット・グローブは他人の利用をすること禁止とする。

また、新たな道具の購入・消毒対応も実施向け準備をする。

・設定理由・補足説明

政府より、手洗いの手指衛生という点より、道具を不特定多数に触ることを防ぐ目的として、監督・コーチにて指導を行う。

また、新たな道具の購入・消毒対応も実施向け準備も行うこととする。

(1)-C 遠征における対策とお願い (草案)

遠征における事項については大会事務局からの連絡・指示があった際にはルールに従う。

また、現時点で、大会日程・開催の可否が未定の為、本項については草案とさせて頂く。

大会等の日程について、明確に出た時点で遠征については再考する。

1. 移動について (1)①の項(政府からの見解) 参照

遠征の移動については次のような措置をとる。

① 区内の場合

都筑区内の遠征の場合、原則自転車移動とする。

⇒自転車での遠征が困難な選手のみを配車組みをして対応。

② 区外遠征の場合

車での移動となるが以下について要請をする。

・A 分散乗車

選手・監督・コーチ、運転手、母サポを含め

各車の定員に対し 60%程度の乗車率を目指す。 ex) 7 人乗り $\times 0.6 = 4.2 \Rightarrow 4$ 人

・B 運転中の換気実施

3 密を避けるべく、運転中の換気をお願いする。

・C 乗車前の手洗い・うがいの実施

・D 車内での食事は禁止とする。

・設定理由・補足説明

(1)①の項 (政府からの見解) より「3 密」を避けるべく策定。

特に配車から出された車にて感染者が出た場合のリスクに対し、配車への協力・乗車も考慮し、上記 A~D の施策を策定する。

2. 遠征の人数について(1)①の項(政府からの見解) ②(学校からの見解)参照

遠征の人数に関して、欠席者により、試合開催が不可能となった場合を除き、対象の学年とその下の1学年の選手のみで遠征に行くことを厳守する。

・設定理由・補足説明

まず、前項(1. 移動について)の項において、分散乗車における乗車率60%を目指すと記したが、従って1台当たり乗車人数の減少、車の台数は増えると考える。

その為、試合開催が困難の場合を除き、対象学年+1学年のメンバーにて遠征することを厳守する。併せて、集団移動における「3密」を防ぐ目的もある。

また、試合中のベンチにて「3密」が懸念されている。②(学校からの見解)にて「大声での配慮」にも視野を広げるとベンチに入れる人数を抑えるべきと考える。

これからの時期、夏場ということもあるが、熱中症対策とコロナウイルスへの対策を天秤にかけた場合、コロナウイルスの方が治療法の確立がされていないことからチームではこの選択を取らざるを得ないとする。

4. その他

①チーム行事について

現時点で、町内会行事である、虫送り、盆踊りは中止となった。また、夏合宿についても中止とした。

以降のチーム行事については、感染状況も踏まえ、開催方法の検討を軸として検討を行う。

②活動再開後感染者が発覚した場合

(1) ライオンズ関係者(選手・監督・コーチ・保護者)にて発覚した場合

接触可能性のチーム・連盟への報告対応を行う為、監督・コーチへ報告を厳守とする。

感染が発覚した場合は、即刻チーム活動は休止とする。

場合によっては、大会等の棄権・不参加の措置をとる。

5. さいごに

本文書をご確認いただきありがとうございます。

選手・チーム関係者において感染者が発生してしまった場合、活動休止はもちろんのこと・大会の棄権も重々可能性としてあります。我々としては野球をやりたい子どもたちの為、機会損失を出来るだけ避けてあげたいという気持ちがあります。しかしながら、昨今のコロナウイルスの感染拡大は大いに猛威を振るっていき、緊急事態宣言を発出させるまでに至りました。個々人での対策や努力もあり、今は回復傾向にあります。

チームにて検討をし、子どもたちに少しずつ、野球をやれる環境を作りたいと考えました。しかしながら、通常通りの再開とは考えてはおりません。今後の感染状況においては、更に検討する必要があるとも考えております。

今回については、関係各所からの指示・資料をもとに、安全対策を本ガイドラインにて記し、厳守することとし、活動再開をしていきたいと考えております。

また、検温・マスクの着用その他、この状況下の中、保護者の皆様にもご協力を頂く場面が引き続きあるかと思えます。子どもたちの安全対策の為、お手数をおかけしますが、ご協力の程お願い致します。

運営上の困りごとにつきましては、各チーム監督にご相談いただければと思います。

最後になりますが、引き続きチーム活動へのご理解とご協力の程お願い致します。

南山田ライオンズ	代表	小谷	良平
	総監督	川崎	義久
A チーム	監督	佐藤	幸弘
B チーム	監督	郡司	拓弥
C チーム	監督	岸田	良一